

北海道大学 医学部 形成外科
同門会・教室年報 2007

ANNUAL REPORT 2007

Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Graduate School of Medicine, The University of Hokkaido at Sapporo





同門会忘年会 (2007年12月8日 於 ルネッサンスホテル札幌)



教室員（2008年1月 於 北海道大学医学部臨床第3講堂）

INDEX

巻頭言

会長挨拶／新富芳尚
教授挨拶／山本有平

同門だより 001

2007年の活動／大浦武彦
近況／浜本淳二
尻が暖まる暇のない一年・・・／杉原平樹
変わらずに残るためには、変わらなければならない
“We must change to remain the same”／本田耕一
ライブサージャーリー顛末記／野平久仁彦
あいかわらず／川嶋邦裕
多忙な2007年の回顧と
「血管腫・血管奇形研究会」の紹介／佐々木了
栄枯盛衰／村住昌彦
日本人濃度／関堂 充
北大形成外科という母屋／堤田 新
息子は父親のことをどれだけ知っているか／古川洋志
ベルギー・イタリア・台湾研修で感じたこと／森 弘樹
道／吉田哲也

教室年譜 2007 010

年譜
PEPARS「縫合の基本手技」編集：山本有平 発刊
静岡がんセンター皮膚科部長 清原祥夫先生 来訪
北海道大学病院形成外科病棟・外来～感謝と親睦の夕べ
北海道大学・岩手医科大学・福島県立医科大学
形成外科懇親会
山本有平 復旦大学・中山医院（中国）にて特別講演
および客員教授に発令
京都大学・大阪大学教授 田畑泰彦先生 来室
第30回日本美容外科学会（札幌）～会長 新富芳尚
副会長 野平久仁彦、山本有平
山本有平 パリ大学・Necker病院 craniofacial unit、
Saint-Louis病院（フランス）表敬訪問

教室年間活動 2007

研究 016

北大形成外科カンファレンス
Manifest2007
業績一覧：論文&学会発表
UHS English Literature PDF Library
参加学会一覧～演者、座長・司会、参加
研究費採択状況一覧
北成賞

留学報告 035

小山明彦
舟山恵美
堀内勝己
齊藤 亮

教育 042

講義・試験

臨床実習

長期選択実習

臨床研修プログラム

北大形成外科アカデミー

学会専門医・認定医

研修医教育セミナー

Cranio-Facial セミナー

皮膚がん治療セミナー

PRS residency file

手術手技Movie Library

診療 057

北海道大学病院
市立札幌病院
函館中央病院
帯広厚生病院
北見日赤病院
旭川厚生病院
時計台記念病院
日鋼記念病院
釧路労災病院
手稲溪仁会病院
苫小牧日翔病院
北海道がんセンター
市立函館病院
浦添総合病院
美唄労災病院
恵佑会札幌病院
福井大学医学部附属病院
蘇春堂形成外科
廣仁会褥瘡・創傷治癒研究所
札幌スキンケアクリニック
はた形成外科クリニック

形成外科手術 data-base
教育病院研修レポート

レクリエーション 077

The Party
バスケットボール大会
野球大会
サッカー大会

同門会構成員・役員

教室スタッフ

新入同門会員・教室員

教育研修施設

A会員勤務施設

学会役員・委員

日本形成外科学会認定・教育関連施設

同門会規約

教室総則

巻頭言

同門会会長挨拶

ながい間ご協力まことにありがとうございました。



新富 芳尚

北海道大学医学部形成外科同門会 会長
蘇春堂形成外科 理事長

平成7年二代目杉原教授の就任と同時に、杉原教授より浜本初代同門会長の後を引き継いでの会長就任を依頼され、同門の皆様のご承認を得て二代目同門会長に就任いたしました。

当初は杉原教授ご退官と同時に会長を退く予定でしたが、三代目山本教授があまりにお若く、新しい教室の基礎固めのめどがつく三年位は続けて欲しいとの山本教授よりのお言葉がありましたので、本日までその任を務めてまいりました。その山本教授のお言葉通り、三年を経て日本一にふさわしい教室の基礎固めがなされました。

そして、私の後を超多忙にもかかわらず市立札幌病院院長の吉田先生が三代目同門会長を気持ちよく引き継いで下さるとのこと心残りなくその任を全うすることができました。

同門各位には、経済的にきびしい時代にもかかわらず教室の運営の要となる資金援助をはじめ教室員への学問・臨床の教育指導、種々の学会への協賛ご助力など多大なる貢献をいただきました。改めて、心より感謝とお礼を申し上げます。

まことにありがとうございました。

皆様には、三代目吉田会長にも私と同様変わらぬご協力を切にお願いして最後の会長挨拶といたします。

教授挨拶



山本 有平

北海道大学医学部形成外科学教室 代表
北海道大学大学院医学研究科・医学部
機能再生医学講座 形成外科学分野 教授

皆様にご報告したい今年の出来事があります。4月に杉原平樹名誉会員が日本形成外科学会理事長の任を無事に終えられ、学会の名誉会員に推戴されました。さらに、10月には新富芳尚会長が第30回日本美容外科学会を札幌にて開催され、学術的に非常に高い評価を得て大成功を収めました。教室員一同、この素晴らしい学会の運営に協力することができ大変誇りに思っております。そして、12月の同門会総会では、吉田哲憲副会長が、新富芳尚会長よりパトタッチを受けて新会長に就任され、新しい体制がスタートしようとしています。私自身も、当大学院を卒業され、現在はフダン大学（中国・上海）形成外科教授であるQi先生の依頼を受け、8月に開催された大学附属病院である中山医院開設70周年記念大会にて特別講演を行い、客員教授に任命されました。一方、若い力である新しい教室員は、昨年の11名の次年度で懸念されましたが、幸いにも現在5名の初期研修医が私のもとを訪れ、形成外科研修を開始し順調に経過しております。

私が掲げる目標の一つに、教室員のキャリアアップ～国内外留学があります。今年も、3名の教室員が海外に、1名の教室員が国内に飛翔しております。フランス・パリ大学附属サンルイ病院のServant教授のもとで舟山恵美医師が、パリ大学附属ネッカー病院のArnaud先生（頭蓋顎顔面外科領域において高名なTessier教授～Marchac先生の後継者）のもとで小山明彦医師が研修を行っています。さらに、堀内勝己医師はアメリカ・アラバマ州立大学のVasconez教授に師事して、形成再建外科のup dateについて研修を始めています。国内においても、有数の再建手術症例数を誇る癌研有明病院形成外科にて、齋藤亮医師が研鑽を重ねています。彼らの精力的な活動は大変頼もしく、これからの活躍が期待されます。

さて、振り返りますと私にとってこの2007年は“広報の1年”と言えます。形成外科のスポークスマンとして、多方面において疾走してきた感があります。学際的には、消化器外科分野、耳鼻咽喉科分野、整形外科分野等の他領域の全国学会において、外科手術の基本である創閉鎖からbrand newな神経再建法の開発におよぶ形成外科学の多様性を伝えてきました。市民に対しては、札幌三越デパートで開かれた第30回日本美容外科

学会総会・市民公開講座や函館中部高校で開かれた「北大セミナー in 函館」を担当し、形成外科診療の素晴らしさについてお話しする機会を得ました。メディアを通じた広報においても、今年は北海道新聞から数回取材を受け、リンパ浮腫、眼瞼下垂、乳房再建の最新の治療についての記事やコメントが掲載され、大きな反響がありました。そして、年末からは、念願であった形成外科を紹介する医療記事の連載が開始します。現在まだ、道内地方におきましては、形成外科を知らないために、適切な治療を受けることができず苦しんでいる方々が多くいると思います。私はかねてより、そのような患者さんに、形成外科で治せるいろいろな病気や怪我を広く知ってもらうために、形成外科全体を理解してもらう連載記事の必要性を考えていました。この度、北海道新聞編集部のご理解を得て、毎週1回、計10回の連載を担当します。不安もありますが、形成外科地域医療の充実・発展にこの記事が少しでも役に立つよう、誠心誠意頑張りたいと思います。

教育におきましても、医学生に形成外科学を理解してもらうことは非常に重要なことと考えますが、残念ながら、現在全国の医育機関・医学部には、形成外科学講座はまだ約半数しかありません。「北海道大学医学部基本臨床コース・形成外科学」を私が担当して3年目に入りました。形成外科という学問・診療分野を、自分自身の言葉で責任をもって、医学生に正しく伝えたいと思い、パートナー教員と共に90分の講義、計8回全てを行っています。また、形成外科研修医に対しても、研修医教育セミナーに加えて、今年はPRS residency file、手術手技Movie Library等のプログラムを設立し、その充実に努めました。詳細については、年報内をご覧ください。これらの教育活動が成果を挙げるには時間を要すると思いますが、必ずや近い将来、太い幹をなし大輪の花を咲かせることを心から信じています。